

図書館展示2月●2007

# 絵画と音楽

音楽が絵画を生むことがあれば、  
絵画が音楽を生むこともあります。  
絵の前で立ち止まって耳を澄ましてください。  
あなたの心に音楽が響いてきませんか？

企画♪高田涼子（国立音楽大学附属図書館閲覧参考部）

期間●2月5日－3月16日

場所●図書館ブラウジングルーム/AV資料室

図書館展示 | 2月5日~3月16日

音楽が絵画を生むことがあれば、  
絵画が音楽を生むこともあります。  
絵の前で立ち止まって耳を澄ましてください。  
あなたの心に音楽が響いてきませんか？

# 絵画と音楽

## Contents

絵を見てインスピレーションを受け、 作られた音楽	-----2
(死の鳥(Totense)) ラフマニノフ&レーガー	
(死の舞踏(Totentanz)) リスト	
(展覧会の絵) ムソルグスキー	
交響曲(画家「マティス」) ヒンデミット	
(ポッティチェリの3枚の絵) レスピーギ	
交響詩(海) ドビュッシー	
音楽に影響されて描かれた絵	-----4
(ピアノ協奏曲K488の第2楽章) モーツァルト	
参考文献	-----4

企画・構成 高田涼子 (国立音楽大学附属図書館閲覧参考部)

音楽をアニメにしたディズニー映画『ファンタジア』はよく知られています。また、最近  
は「のだめカンタービレ」「ピアノの森」「神童」など音楽を絵で表現する漫画が取り上げら  
れ、今まで“クラシック”という音楽に馴染みが少なかった人がコンサートに出向いたりCD  
を購入したりしているようです。

残念ながら、これらの漫画は図書館で所蔵していませんが、美術書や楽譜はたくさん見る  
ことができます。参考図書室では「世界美術大全集」「浮世絵」「日本画」や個人の画集など  
が閲覧できますし、本学の学生や教職員であれば、TAC加盟館である武蔵野美術大学の図  
書館も利用できます。

古くから音楽と絵画はお互い深く影響しあってきました。レッスンで演奏する曲やコンサ  
ートで聴いた音楽の視覚化として、芸術という幅広い視点で音楽を見つめてはいかがでしょ  
うか。ほんの一部ではありますが、簡単にご紹介したいと思います。展示からインスパイアさ  
れ、演奏に反映されれば幸いです。



## 絵を見てインスピレーションを受け、作られた音楽

### 《死の島(Toteinsel)》 ラフマニノフ&レーガー

スイスの象徴派画家、アーノルド・ベックリン(Arnold Böcklin 1827-1902)の「死の島(Toteinsel)」、  
ベックリンは「死の島(Toteinsel)」という題で、同じ構図の絵を5枚も残している。パネルは第1パー  
ジョン(1880)。

ラフマニノフはこの絵にインスピレーションを受け、同名の曲を作曲した。また、ドイツの  
作曲家レーガーも「ベックリンによる4つの音詩」の第3曲に「死の島」を取り上げている。

#### <資料>

ラフマニノフ:《死の島》

Serge Rachmaninoff : “The isle of the dead op.29 ”

Mineola Dover Publications 2003 請求記号 H40-985

レーガー:《ベックリンによる4つの音詩》

Max Reger : “Four tone poems after A. Böcklin[Vier Tondichtungen nach A. Böcklin] ”

Leipzig E. Eulenburg c1913 請求記号 E10-880

### 《死の舞踏(Totentanz)》 リスト

フランツ・リストはピーテル・ブリューゲル(Pieter Bruegel 1564-1638)が1562年頃描いた「死の勝  
利(Triumph of Death)」を見て突然インスピレーションが湧き、「死の舞踏」を作曲したといわれて  
いる。

#### <資料>

Franz Liszt : “Danse macabre[Totentanz]”

New York E.F. Kalmus [195-?] 請求記号 E11-714

### (展覧会の絵) ムソルグスキー

ムソルグスキーの友人であったヴィクトル・アレクサンドロヴィチ・ガルトマン (Viktor Aleksandrovich Gartmann 1834-1873) という若い画家の死後、彼らの精神的指導者であったスタソフの意志で催された遺作展を見た結果作曲されたもの。(展覧会の絵)の“展覧会”とは遺作展のこと。ムソルグスキーがガルトマンの遺作展から 10 枚の絵を選び、それぞれの題名の印象を音で表現している。

第 1 曲「グノーム」の絵は、ガルトマンが学んだペテルブルグの美術アカデミーに、卒業作品として保存されていた。

< 追跡ムソルグスキー『展覧会の絵』請求記号 C55-702 > より

< 資料 >

M. Mussorgsky : “Pictures from an exhibition”

Moskva Muzyka 1982 請求記号 G18-140

### 交響曲(画家「マティス」) ヒンデミット

ドイツの作曲家パウル・ヒンデミットは、16 世紀前半のドイツの画家マティアス・グリュネヴァルト (Matthias Grünewald ?-1528) の生涯を題材に、オペラ(画家「マティス」)を作曲した。初演がナチスの干渉によって延期されたため、オペラの三つの部分をとって交響曲(画家「マティス」)として先に発表された。グリュネヴァルトが描いたイーゼンハイム祭壇画の「天使の合奏」「埋葬」「聖アントニウスの試練」が題材とされている。パネルは「聖アントニウスの試練」。

< 資料 >

Paul Hindemith : “Symphonie Mathis der Maler”

Mainz B. Schott s Söhne c1962 請求記号 H20-883

### (ポッティチェリの 3 枚の絵) レスピーギ

イタリアの作曲家オットリーノ・レスピーギはイタリア・ルネッサンスの画家サンドロ・ポッティチェリ (Sandro Botticelli 1444?-1510) の代表作の三枚の絵「春」「東方の三博士の礼拝」「ヴィーナスの誕生」から受けた印象を音楽によって表現した「ポッティチェリの 3 枚の絵」を作曲した。パネルは「春」(1478 頃)。

< 資料 >

Ottorino Respighi : “Trittico botticelliano”

Milano Ricordi c1995 請求記号 H35-955

### 交響詩(海) ドビュッシー

葛飾北斎(1760-1849)の富嶽三十六景「神奈川沖波裏」(1833)から着想を与えられたといわれている。富嶽三十六景・・・天保 4(1883)年頃に完結したシリーズで、46 枚(主板 36 枚、追加 10 枚)からなる富士山を中心とした風景画で構成されている。

< 資料 >

Claude Debussy : “La mer”

Paris Durand c1938 請求記号 E2-216

## 音楽に影響されて描かれた絵

### (ピアノ協奏曲 K.488 の第2楽章) モーツァルト

東山魁夷が作品製作時に、こよなく愛して聴いていたモーツァルト。創作のインスピレーションを与えた音楽を紹介したい。

「弦楽器の合奏の中を、ピアノの静かな旋律が通り過ぎる」「緑響く」(1972)に寄せた彼の言葉である。

「この、白馬の見える風景の連作をそれになぞらえるのは僭越であるが、やはり、第二楽章のアンダンテ、あるいは、アダージョ的な性格を持つと云える。むしろ、間奏曲であるかもしれない。ドイツの旅と、大和路との間という意味で。」

白馬の見える風景の連作を、魁夷は、モーツァルトのピアノ協奏曲 K.488 の第2楽章に  
仮託しながら考えている。

<東山魁夷 請求記号 R708/GN/5>より

自然界にはリズムカルな「繰り返し」と、アクセントである「変化」がある。  
魁夷の絵には、まさにその「繰り返し = 統一性」と「アクセント = 変化」が認められる。

<白い馬の見える風景より 請求記号 J22-464>より

### <資料>

#### Wolfgang A. Mozart : “Klavierkonzert A-Dur KV488”

München G. Henle c2005 請求記号 H43-366

#### 東山魁夷著 『コンコルド広場の椅子』

東京 求龍堂 1977年 請求記号 J22-466

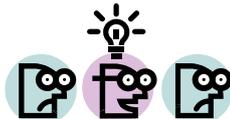
1975年にパリを訪れた東山魁夷。コンコルド広場に置かれた鉄製の椅子に心をひかれ、ペン画の挿画を添えて翌年出版された詩集。その本が作曲家の大澤和子さんの眼に止まり、独唱と合唱による作品が生まれた。(請求記号 F16-170)

#### その他の参考文献

ムーサの贈物: 絵画詩音楽の出会いとこころ。ドイツ編/ 喜多尾啓著 音楽之友社2005 請求記号 J104-040  
道伽ムソルグスキー『展覧会の絵』/ 団伊玖磨近藤史人著 日本放送出版協会1992 請求記号 C55-702

図書館展示2月 2007

絵画と音楽



展示パンフレットは図書館ホームページからも入手できます。(バックナンバーも公開しています。)

<http://www.lib.kunitachi.ac.jp/tenji/tenji.htm>

2007.2.8 編集 国立音楽大学附属図書館広報委員会: 高田涼子・三宅巖